

【令和元年度】逗子市スポーツ推進計画 評価調書

事業名	逗子市スポーツの祭典の開催
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(1)
事業のねらい	全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①逗子市スポーツの祭典の開催	実施		
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	検討		実施

事業予算	元年度	事業決算	元年度
	0円		0円

令和元年度の実施結果・特筆すべき実績	
①逗子市スポーツの祭典の開催	<p>平成30年度と同様に逗子市立体育館と第一運動公園にて10月20日(日)に開催した。前年度に比べて3種目増の28種目を実施し、参加者数は763人増の延べ2,494人であった。</p> <p>平成30年度と同様に、市の財政対策プログラムの集中対策期間であることから、市からの交付金によらず、共同開催による市民まつりとの連携、企業からの協賛金の確保、(公財)逗子市体育協会及び逗子市スポーツ推進委員協議会の協力等により実施した。</p> <p>スタンプラリーを、市民まつりの参加型イベントと連携して実施し、抽せんで景品をプレゼントして、参加する意欲を高めた。</p> <p>ラグビーワールドカップ™と開催時期が重なり、ラグビー・タグラグビー体験は、体験を希望する子ども達のニーズに応えることができた。</p> <p>アンケートを実施し、「これからスポーツを始めたいか(再開したいか)」では、「とても思った」「やや思った」が合わせて82%であった</p>
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	<p>「カローリング」「吹き矢で遊ぼう」「グラウンドゴルフ」「ターゲット・バードゴルフ」「インディアカ」等、高齢者が参加しやすいイベントを実施した。延べ参加者数618人(平成30年度266人)。</p> <p>また、元気な高齢者を増やそうプロジェクトと連携し、ノルディックウォーク、元気Caféを実施した。</p>
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	<p>「ポッチャ」「みんなでスポーツ」「みんなでダンス」の3つは、障がいのある方を中心に誰もが参加しやすいイベントとして実施した。延べ参加者341人(平成30年度354人)。</p>

④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	<p>オリンピック・パラリンピック種目は、「卓球」「バドミントン」「野球」「ソフトボール」「ラグビー」「ボッチャ」の体験イベントを実施した。延べ参加者数 659 人。(平成 30 年度 391 人)</p> <p>また、「東京五輪音頭練習」を実施し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの周知を図った。</p> <p>スペイン・セーリングチームと交流した際に撮影したパネルを展示し、ホストタウンとなっていることを周知した。</p> <p>(「アーチェリー教室」「ラジコンヨット疑似体験」「テニス教室」は、逗子市民まつりの中で実施)</p>
----------------------------------	---

令和元年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃スポーツをしない方や子ども、高齢者、障がいのある方等が興味を持って参加しやすいメニューづくりを心掛けたことで、「スポーツ機会の提供」及び「スポーツのきっかけづくり」に結びつく。 ・ラグビーワールドカップ™の関連グッズを展示して、ラグビーワールドカップ™での日本代表チームの活躍で高まった子ども達のラグビーへの興味関心に応えることができる。 ・「ラグビー・タグラグビー体験」を通じて、ラグビーを始めようとする子どものきっかけづくりになる。 ・スポーツの祭典の実施後に、うみかぜクラブの新規登録につながる（令和元年度 31 人）。 ・「カローリング」「吹き矢で遊ぼう」「グラウンドゴルフ」「ターゲット・バードゴルフ」「インディアカ」等の高齢者向けイベント、「みんなでスポーツ」「みんなでダンス」等の障がい者向けイベントでも、誰でも参加できる実施内容とし、老若男女、障がいの有無を問わず一緒に楽しめる状況を作り、交流を深めることが期待できる。 ・オリンピック・パラリンピック競技をゲーム的に体験できるイベントとして「卓球」「バドミントン」「ストラックアウト・ティーバッティング」「ソフトボールピッチング」「ラグビー・タグラグビー」「ボッチャ」を実施し、体験する面白さを伝えるとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図ることができる。 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの祭典をきっかけに一層スポーツに親しむことで、健康な心とからだをつくることに寄与する。 ・子どもから高齢者、障がいのある方、日頃スポーツに触れる機会の少ない方等、誰もが共にスポーツを通して交流することで、地域の連携により効果を与える。 ・スポーツを始めたい、再開したいという方が、スポーツを始めることで、地域のスポーツ環境の活性化につながる。 ・これらによる効果が、相乗効果となりスポーツを通じた活力に満ちたまちづくりを推進する。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートの結果、82%の方が「これからスポーツを始めたい（再開したい）」と考えており、きっかけをつくることができた。 ・高齢者、障がいのある方に向けたイベント、東京オリンピック・パラリンピック開催記念のイベントを強化し、前年度と比較して参加者が増加した。 ・市の財政的支援がない中で、企業の協賛や、市民まつり、元気な高齢者を増やそうプロジェクトとの連携及びスタンプラリーの実施によって、参加者が増加した。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見

●評価は **B** が適当と考える。

- ・参加者が前年度から 763 人増加し、アンケートではスポーツを始めたい・再開したいと回答する方が 80% を超える等、「継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり」という事業目的は十分達成できていると評価できる。
- ・小さな子どもから高齢者までの幅広い年齢層からの参加が見られ、障がいのある方も参加できる等、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの機運醸成に効果的な内容であり、令和元年度にしかできないイベントができていたことは評価できる。
- ・ラグビーワールドカップ等、スポーツに注目が集まっていた状況を上手く活用していた。
- ・「ボッチャ」は、参加可能な年齢層が幅広く、障がいのある方も一緒にできるパラスポーツで、参加者の意識を東京 2020 パラリンピックに向けることにつなげていた。逗子市の中でメジャーなスポーツとして盛り上がると良い。

事業名	スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(2)
事業のねらい	地域のスポーツ指導者などを活用し、初めてスポーツをする方や、スポーツについてもっと知りたい・楽しみたい方の欲求を充実させ、新たな交流を創り出す。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	データベース化	データベースを活用した情報の提供と登録者の充実	
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	内容検討	学習会の実施及び見直し	
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

令和元年度の実施結果・特筆すべき実績	
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	<p>年度当初に「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。</p> <p>市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報」を公開し、更新している。</p>
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	<p>国保健康課管理栄養士、保健師と体育協会健康運動指導士が連携し「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」3か月(6月～8月、1月～2月)を実施した。(参加者 各回5人)</p> <p>逗子市体育協会の補助事業として、指導者養成教室を実施した。</p> <p>審判講習会はバレーボール、ソフトボール、テニスの3競技の指導者・審判員を対象とした。各1回の講習で、バレーボールは60名の参加があったが、ソフトボール、テニスは新型コロナウイルス感染症拡大による市立体育館及び第一運動公園の臨時休館等に伴い中止となった。</p> <p>レクリエーション指導者講習会は、指導者、審判員、愛好者を対象とし、延べ53人に対し、全3回実施した。</p> <p>スポーツ少年団指導者研修会は、スポーツ少年団指導者180人に対し、全1回実施した。</p>
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	<p>市立体育館指定管理者の健康運動指導士の資格を持つ職員による「健康・体力相談」を、全39回(2月、3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い中止)延べ125人に対して実施した。(平成30年度 全43回、延べ136人)</p> <p>市立体育館トレーニングルーム内に設置されている未病センターにおいて、筋肉量、体脂肪量、BMI、体脂肪率を簡単に計測できる体重計が利用できる等、引き続き健康づくりに取り組む方へのサポートを行っている。</p> <p>未病センターの利用人数は、延べ28,645人(平成30年度30,449人)、1日あたりの利用人数は98.4人(平成30年度96.3人)であった。なお、3月3日(火)から3月31日(火)まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る市立体育館の臨時休館により中止した。</p> <p>スポーツ推進委員会を中心として、パラリンピック正式種目であるボッチ</p>

	<p>ヤの普及活動が行われた。逗子葉山教職員を対象としたボッチャの講習会や（教職員 14 人が参加）、沼間小学校での小学 5 年生の体育授業の支援として審判まで含めた指導を行った。3 月には、昨年度に引き続き逗子市スポーツ推進委員協議会が主催するボッチャ大会を予定し、2 月に自主講習を開催し準備をしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市立体育館の臨時休館により中止となった。また、逗子市体育協会の事業である逗子市地域対抗球技大会においても、新規種目としてボッチャが取り入れられた。</p>
--	---

令和元年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み

事業を行ったことにより想定される効果	事業を行ったことにより想定される効果
--------------------	--------------------

<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」には、新規 1 団体（陸上）の掲載依頼があった。情報を更新することで正確な情報が提供できるほか、新しいスポーツ団体が加わることは子どもの選択肢を広げるので、情報としてより良いものになっている。 ・「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」の本格導入により、健康維持のために身体を動かすことが必要な人が、適切かつ安全にスポーツに取り組むことができる。 ・指導者養成教室を継続的に実施することで、適切かつ安全なスポーツへの取組み方が市民に普及する。 ・「健康・体力相談」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係り 3 月を中止したため、実施回数は減少したが、引き続き市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知と利用が進む。 ・パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の普及活動は、東京 2020 パラリンピック競技大会に向けた市民の機運醸成につながる。
--

<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報の継続的な提供は、市民がスポーツをはじめのきっかけになるとともに、スポーツ団体への加入等により、スポーツを通じた市民同士の交流づくりにつながる。 ・「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」や「健康・体力相談」の実施は、初めてスポーツに取り組もうとする人に対して、最初の一步を踏み出しやすくするだけでなく、健康な生活習慣の重要性への気づきや理解を深めることにつながる。 ・パラリンピックの正式種目の競技を実際にやってみることは、競技スポーツやパラスポーツに対する関心や興味を高めることにつながる。
--

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。</p>
------------	---

<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度から「小学生のためのスポーツ団体一覧」の配付による情報提供を開始し、毎年情報の更新を行っている。県「スポーツ指導者情報」の提供については、データベースを活用し指導者の派遣を受けた団体等と指導者とのマッチングが上手くいったかの把握はできていないので、県との情報共有等により活用状況を確認し、場合によっては提供の仕方を工夫する等について検討していく。 ・「健康・体力相談」のニーズに応じて回数を増やし、延べ人数の増加や内容の一層の充実を図ることができた。また、市役所未病センターと市立体育館未病センターの保健師と健康運動指導士が、役割分担をしたうえで事業を実施し連携している。ただし、健康運動指導士については現在有資格者が 1 名なので、今後事業が拡大するには、増員等について指定管理者と協議していく必要がある。 ・平成 30 年度に試験実施した「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」を本格的に開始した。引き続き、関係所管及び専門家と連携しながら、参加者増に努める。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る市立体育館の臨時休館に伴い、「健康・体力相談」が実施できない期間があったが、概ね各事業の目的は達成された。 ・全体として B と評価する。

審議会での意見

●評価は が適当と考える。

- ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」による情報提供を継続していることは評価できる。
- ・未就学児や新1年生だけでなく、昨今増加している逗子に移住してきた方にとっても参考になる。随時情報を更新し、掲載団体が増えることが望ましい。
- ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」について、逗子市内のどれくらいの小学生が参加しているか分かるように、掲載団体に参加する小学生の数、掲載団体以外でスポーツをする小学生の数の情報も提供できると参考になる。
- ・県の「スポーツリーダーバンク（スポーツ指導者情報）」については、県と市で情報共有や連携を図り課題の把握に努めてほしい。

事業名	小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(3)
事業のねらい	子どもの運動不足解消や体力・運動能力の低下の改善のための、情報提供及び環境づくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	派遣先との調整	指導者の派遣	
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	派遣先との調整	指導者の派遣	
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

令和元年度の実施結果・特筆すべき実績	
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	<p>市立中学校3校において、学校支援地域本部が派遣する形で、PTA・OB/OG・顧問の紹介等による地域講師が部活動の指導を行った。派遣先の運動部系部活動は3校合計で7部12人(平成30年度は8部16人)の外部指導員が派遣された(逗子中:バドミントン部2人、バレーボール部1人、ソフトテニス部1人、久木中:柔道部2人、沼間中:ソフトテニス部1人、剣道部4人、バドミントン部1人)。</p> <p>逗子市スポーツ推進委員が、逗子葉山教職員を対象としたポッチャの講習会を行った。(教職員14人)また沼間小学校において、小学5年生の体育授業の支援として、審判まで含めた指導を行った。3月には、前年度に引き続き逗子市スポーツ推進委員協議会が主催するポッチャ大会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う市立体育館の臨時休館により中止となった。</p>
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	<p>逗子市卓球協会が子育て支援課から委託を受け、体験学習施設スマイルにおいて、「先生付き卓球開放デー」を実施した。小学生～高校生を対象に10回実施し、受講者数は延べ59人であった。また、一般講師による「合気道」を実施した。小学3年生～中学3年生を対象に3回実施し、受講者は13人であった。</p>
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	<p>年度当初に「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。掲載情報は、情報を更新し、充実を図った。</p>

令和元年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB/OG 中心の外部指導者を活用することで、学校でのスポーツ活動への理解が高く、スムーズな指導を実施することができる。 ・学校側の目的である障がいのある児童がスポーツを楽しむ「場づくり」のきっかけを作る。また、運動が不得意な子どもでも楽しめるポッチャを通じて、運動する子どもとしない子どもの二極化解消のきっかけにもなる協力を行うことができる。 ・毎年「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を更新することで、スポーツを始めたい子どもに最新の情報提供ができる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動への地域の外部指導者の派遣は、地域と子どもがつながるきっかけとなるだけでなく、より専門性の高いスポーツに触れる経験や効果的な指導を受けることで、運動能力の向上や競技スポーツへの関心を高めることも期待できる。 ・教職員へのポッチャの指導を継続していることは、地域全体での普及につながることを期待できる。 ・子どもが市内のスポーツ団体での活動を行うようになると、学校以外のスポーツを通じた地域内交流を経験することができる。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・件数はやや減少したが、引き続き指導者の派遣が行われている。 ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報更新は行っている。健康づくりに関する相談対応は全年齢対象の「健康・体力相談」による対応のみとなっている。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見	
<p>●評価は B が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」による情報提供を継続していることは評価できる。 ・指導者の派遣については、人数の確保等、難しい状況もあるが、堅実に継続していくことが大切である。 ・運動をする子ども、しない子どもの二極化が進むと言われる中、運動をしない子どもがイベントを通してスポーツに興味を持つきっかけになることも考えられるので、継続していくことが重要である。 ・部活動の指導をする教員にスポーツ種目の経験があるとは限らず、土日等の活動も多い状況を踏まえ、部活動と地域が連携、協働していくことが求められる。その中で地域の指導者が果たす役割は大きく、今後も重要な取組みとして期待する。 	

事業名	「うみかぜクラブ」の活動内容の充実
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(4)
事業のねらい	生涯にわたって、誰もが、気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与し、クラブの自立化・安定化を図る。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①経営の自立化に向けた検討・調整	自立に向けたビジネスモデルの検討		自立化
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
④スポーツメニューの見直し	取り組み方の検討	実施	見直しと実施

※事業決算については、うみかぜクラブの自主財源により事業を実施していることから省略。

令和元年度の実施結果・特筆すべき実績																									
①経営の自立化に向けた検討・調整	<p>経営の自立化に向けて、平成30年度に年会費、参加費、メニュー等の大幅な見直しを図った。</p> <p>登録者数は減少したが、新たに追加したメニューが人気となり、それをきっかけとした会員増等の効果も見られた。また、初回無料参加(お試し参加)が無くなったことを受けて、2月9日(日)に実施した「うみかぜまつり」で無料体験dayを実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る施設の休館等により、3月3日(火)から31日(火)まで活動を休止した。</p>																								
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	<p>メニュー数は、前年度と比較して3メニュー(健康筆習い、手芸、Jrバドミントン卓球)増の16メニューとなった。延べ開催数は761回(平成30年度722回)と増加した。一方、延べ参加者数は施設の臨時休館等もあり、21,136人(平成30年度22,320人)と減少した。</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>86人</td> <td>53人</td> <td>56人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>21人</td> <td>19人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>126人</td> <td>76人</td> <td>69人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>626人</td> <td>485人</td> <td>477人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>859人</td> <td>633人</td> <td>614人</td> </tr> </tbody> </table> <p>「健康筆習い」「手芸」は、スポーツをしない方でも参加でき、スポーツをするきっかけにつながることを目的に導入した。このうち「健康筆習い」は、書くときに必要な呼吸や姿勢を整えることで、集中力が養われ、スポーツに通じる部分があると好評であった。</p> <p>バドミントンと卓球の両方ができる「Jrバドミントン卓球」は、ジュニア会員の増だけでなく、校区を超えた会員同士の交流にもつながった。</p>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	0～19歳	86人	53人	56人	20～39歳	21人	19人	12人	40～59歳	126人	76人	69人	60歳～	626人	485人	477人	合計	859人	633人	614人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																						
0～19歳	86人	53人	56人																						
20～39歳	21人	19人	12人																						
40～59歳	126人	76人	69人																						
60歳～	626人	485人	477人																						
合計	859人	633人	614人																						

	PR活動としては、「うみかぜまつり」（2月9日（日））を開催し、「無料体験 day」「体カテスト」「文化展及び写真展」を行った。また、運営委員とサポーターによる入会案内やチラシ等のポスティングや、逗子市民まつり（逗子市スポーツの祭典）での紹介ブースの設置等も行った。
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体カづくり教室の実施	高齢者対象のメニューとして「高齢者体カアップ体操」を実施し、延べ1,573人（平成30年度2,000人）の参加があった。また、高齢者限定のメニューではないが、「健康体操」、「ZUMBAGOLD®」などは大変多くの高齢者が参加しているメニューである。健康体操延べ2,881人（平成30年度3,115人）、ZUMBAGOLD 延べ907人（平成30年度1,238人）。
④スポーツメニューの見直し	スポーツをしない方にもスポーツを始めるきっかけづくりとなるよう文化メニューを実施した。「健康筆習い」は延べ805人、「手芸」は延べ31人の参加があった。 「うみかぜまつり」（2月9日（日））では、「健康筆習い」の参加者の作品の展示を行い、練習の成果の発表の場を設けた。

令和元年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
	<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年会費、参加費、メニューの見直しを行った結果、自立に向けた経営組織体制の構築が進展する。 ・メニューの見直しにより、新たな会員の入会が促進する。 ・高齢者や障がいのある方がスポーツや体カづくりに向けた運動を取り組むきっかけづくりを提供できる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤字となる事業を廃止し、次年度に向けて新たな取組や工夫をしたことにより、延べ開催数及び参加者数は大きく減少したが、事業全体としてはスリム化したため、今後の自己財源比率の向上が期待できる。

所管課による自己評価	A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興くじ助成金が終了し、施設使用料の負担の発生や、市の財政対策プログラムの影響による開催日の減少等、うみかぜクラブの経営を取り巻く環境は悪化しているが、会費制度の見直しと変更、メニューの改廃や時間変更等により、事業のスリム化を図り、会員のニーズに応えるメニュー構成とすることで、自立化・安定化に向けた体制を構築することができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る施設の休館等の影響があったが、1月当たりの参加者は前年度を上回った。 ・全体としてBと評価する。

審議会での意見	
	<p>●評価は B が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の利用が多く、高齢者の健康づくりに寄与していると考えられる。 ・スポーツを気軽に行いたい方にとって適したメニューが設定されている。 ・事業のスリム化、メニューの見直しを図っていることは評価できる。クラブの自立化・安定化という視点から体制を維持し、運動の場を安定的に提供し続ける取組みを、今後も継続してもらいたい。 ・スポーツ以外の種目をメニューに加え、スポーツのきっかけ作りにつなげる試みは評価できる。引き続き、参加者がいろいろなスポーツを選択でき、希望するスポーツができるように、メニュー構成の工夫をしてもらいたい。